

平成26年度

創立35年



安積三小 学校だより

三しょうの丘 No.10

(承認 賞賛 奨励)

平成27年1月8日

安積第三小学校

つみかさね 坂村 真民

一球一打のつみかさね
一打一打のつみかさね
一歩一歩のつみかさね
一座一座のつみかさね
一念一念のつみかさね

つみかさねの上に
咲く花
つみかさねの果てに
熟する実

それは美しく尊く
真の光を放つ

(出典:「花ひろく心ひろく道ひろく」)

新年のあいさつ

保護者の方々、地域の皆様方には、新しい年を迎えられましたこと心からお慶び申し上げます。年末年始を元気に過ごした子ども達の笑顔を本日見ることができ、教職員一同大変うれしく思っています。

新しい年、変化への対応をどうするか。しかし、教育という仕事は制度がどう変わろうとも目の前の子どもを忘れては成り立ちません。じっくりと足元を見つめながら、新しいものに挑戦する勇気が問われる年ではないかと思えます。

そこでまず、子ども達一人ひとりが自分の願いや目標を持つこと、そして、教職員もどの子もいとおしみながら自分にしかできない教育を目指してとにかく実際に試みることが大事になります。

「終日終夜思えども益無し。学ぶにしかざるなり」。子ども達にとってさらなる成長の足がかりとなるよう実践を大切に取り組んでいきたいと思えますので、保護者や地域の皆様方のご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

子どもらしく生きる

むかしは、隣近所の家が家族ぐるみで付き合う中で、子ども同士も一緒に遊ぶというのが子ども達の生活の構造でした。隣のお兄ちゃん・お姉ちゃんという異年齢とのつきあいがありました。しかし、昨今の子ども達の生活の構造の中では、物理的には生活圏が広がっていますが、隣近所の人々との交流の機会は、量的にも質的にも希薄なものになってきています。そのために、子ども達にとっても、隣近所での生活の持つ意味が薄れてきています。子ども達にとって、生活の場として明確に感じ取れる生活空間は家庭と学校だけになってしまった感じがします。それ以外の生活空間は、行動の場であっても、自分が構成員の一員であるという認識はますます薄れてきているのではないかと思います。

子どもが子どもらしく生きるということは、子どもの特権であろうと思います。子どもは、子どもの目で、子どもの頭で、子どもの心や体で物事をとらえ、感じ、考えながら、ゆっくり成長していくものです。大人は子ども時代をすでに体験してきています。子どもが子どもらしく生きる場として、行動する生活の場としての地域社会の果たす役割が大きいことは、十分に承知しているはずです。しかし、学校と地域と家庭の連携協力が強調されても、地域社会が子ども達にとってどれだけ実体のある生活の場として認識されているかが問題なのだと思います。

第2回学校評議員会を開催

過日実施した学校評議員会には、お忙しい中7名の評議員の方に出席いただき、11月に実施した学校評価アンケート(児童用と保護者用)の分析結果の説明並びに話し合いを行いました。また、「地域での児童の様子」や「地域の方や保護者の方から聞き伝わっていること」等について意見交換を行いました。参加された評議員の方からは、貴重なご意見をいただきました。学校では、今、来年の教育課程について話し合いをしているところですので、評議員の意見やアンケートで保護者の方からいただいた内容を生かしたいと考えています。